

Ledya Home Doctor

レディアホームドクター

Q&A

以前、皮膚科で肝斑かんぱんと言われたのですが、放っておいたところ、最近になって濃くなってきたように思います。今からでも、何か薄くする方法はあるのでしょうか。
(40代 女性)

紫外線や女性ホルモンが関与する肝斑 内服・外用薬と日焼け防止で治療を

肝斑とは、30～40代の女性によく発生する顔面の後天性色素斑です。主に頬骨の部分を中心とした左右対称性の淡い色素斑ですが、額や顎に見られることもあります。肝斑の原因は明らかではありませんが、紫外線の関与や妊娠、出産、また経口避妊薬の使用後に発症することがあり、女性ホルモンの関与などが考えられています。

治療は、抗炎症作用のあるトラネキサム酸やビタミンCの内服療法、メラニンの合成を抑えるハイドロキノン軟膏こうや、メラニンの排出を促進させるトレチノイン軟膏などの外用療法、ケミカルピーリング、イオン導入などがあります。一般的にはこれらを組み合わせた治療が効果的です。

日常生活で気を付けることは、紫外線は肝斑の悪化因子ですので、外出時は日焼け止めの使用や日焼け止め入りの化粧品を使用してください。また、高濃度ビタミンC配合の基礎化粧品を使用したり、ハイドロキノンが含まれたコンシーラーもありますので、それらを組み合わせて、メイクで上手に予防することが大切です。



回答医師

原口 裕子 先生

岡山第一病院 皮膚科医長
近畿大学医学部卒業。近畿大学附属病院、岡山大学病院皮膚科勤務を経て、2011年より現職。日本皮膚科学会専門医。日本美容皮膚科学会会員。

■岡山市中区高屋343

■TEL.086-272-4088

URL:<http://www.okayama-daiichi.jp>